

家族円満の秘訣は、絶対に無理をしないこと

こどもたちの成長を見つめて

区内の青少年委員として活動されている高橋さん。青少年委員は「行政・学校・地域・家庭の架け橋」として地域を結び役割を担い、ジュニアリーダーの支援や区民まつり等、青少年委員会を通じてさまざまな地域活動をしています。

「昨年はコロナ禍で中止となっていました。このままでは中学校生徒会交流会として各校の生徒の交流や育成の場を設

けたり、区民まつりではポ

菓子と射的ブースの出店を通じて、青少年委員の活動を知りやすくなる取り組みを行ってききました。学校や地域をつなぎながら、こどもたちが大人に成長していく過程をお手伝いできることに大きなやりがいを感じています。また、

学校を離れて地域に出ると自分の親と同じかそれ以上の方々とお話をさせていただく機会があり、私自身にとって貴重な経験になっています。たまには家族に甘えてもいい

PTAや青少年委員、仕事、家事、育児を並行



高橋美樹さん

して頑張ってきた高橋さん。その秘訣を「絶対に無理をしないこと」と言葉に力を込めます。「疲れて大変なときにまで、完璧にこなさなきゃ」と頑張りすぎてしまうと、必ずどこかにしわ寄せがきます。ですから、たとえば仕事で帰りが遅くなるときは「今日の夕飯はお惣菜でいい」というように家族に甘えてもいいと思います」。



趣味のアクセサリーづくりも高橋さんの大切な時間

そんな高橋さんを、ご家族が応援しています。「夫も息子も料理好きなので助けられています(笑)」。と、はにかむ高橋さんは、家族との距離感にもひとつの信念が。「一緒にいすぎるともよくないのかなって。どうしても干渉してしまいますものね。仕事やPTA、青少年委員で忙しくしていたことが、ちょうどいい距離感を保ってくれたのかもしれません」と円満の秘訣を語ってくださいました。

江東のひと

仕事、家事、育児、趣味——人生をより豊かにする「ワーク・ライフ・バランス」の取り方について、区内在住の方にお話を伺いました。(インタビュー内容を掲載)

良かれと思ったことは即行動

2人のお子様がいらっしゃる小林さん。1人コンサルタントとして働くかわら、こどもたちの通う小学校のPTA会長(元江東区立小学校PTA連合会会長)も務められています。

その抜群の行動力は学生時代からいかに発揮されていたとのこと。「大学ではお酒が飲めない人のための集まりを作り、会社では自己啓発勉強会を発足し、こどもが通う保育園では父

母の会を立ち上げ代表を務めさせていたが、良かれと思ったことはすぐ行動に移す。じつとていられない性格のようです(笑)。

プロジェクトとして楽しむ

仕事、PTA、地域活動さらには自身の趣味と多忙を極めても、家事や育児には無理のない範囲で全力を尽くすという小林さん。コロナ禍においても、そのスタンスに変わりはありません。「朝6時から草野球の練習をして、午前中のうちにこどもの勉強をサポート。午後は家族みんな

それは「ワーク・ライフ・シナジー」です

小林 慶さん



でピクニックやバーベキューを楽しむのが定番になっています。家事は気付いた方がやる形です。と、とくに役割分担などは決めていませんが、自然と半々くらいになっています」とのこと。うなガティブな思考に陥ってしまいがちな小林さん。仕事も家事も育児も趣味もプロジェクトのひとつと捉え、相乗効果によりすべてが高められると考えています。いわば「ワーク・ライフ・シナジー」です。自分の役割を責任と感じるのではなく、それを楽しむことを大切にしています。まずは自分自身が楽しむ周囲の方々の楽しさをサポートする(笑)。



小林さんのお人柄が垣間見える家族旅行でのひとコマ

区内企業に見る

ワーク・ライフ・バランスの取り組み

建前で終わらせない実のある働き方改革を SCSKサービスウェア株式会社

ライフスタイルに寄り添いながら

江東区豊洲に本社を置くSCSKサービスウェア株式会社。企業のコンタクトセンター、ヘルプデスク、バックオフィス、分析サービスを行うBPOサービスを展開し、製造・流通・情報通信・金融など幅広い業界への対応力を強みとしています。

そんな同社のもうひとつの

「強み」として多方面から注目されているのが、ワーク・ライフ・バランスの充実。子育て支援に関する目標を達成した企業に厚生労働省から与えられる「くるみん」マークを3度にわたり取得しているほか、全国から12のワーク・ライフ・バランス認証を得ています。その根底にある理念について、人事部副部長の秋庭さんに伺いました。

「大切にしているのは、人を大切にします」という経営理念、建前ではなく実践することです。心身ともに健康を保ち、やりがいを持つていきいきと働いてもらうため、社員の立場で働き方の改善に取り組んできました。特徴的なのは、社員のライフ



人事部 副部長 秋庭洋一郎さん



子育てサポート企業「くるみん」ほか数多くの認証を取得

「たとえばメモリアル休暇は、社員自身や家族の誕生日、あるいは結婚記念日などの記念日を祝うための休暇です。また、エデュケーション休暇は資格取得試験など自己研鑽に利用していただくためのもの。さらには、長期休暇を実現していただくための連休サポート休暇などを設けています」。

加えて「制度を設けるだけでは不十分」という片山さん。「当社は年次有給休暇を積極的に活用していただけるよう、1年間の休暇予定をあらかじめ立て、申告してもらうようにしています。そうすることで業務への支



人事部 労務課 片山修さん



人事部 労務課 中村あゆみさん

より豊かなライフ&ワークを

残業時間の削減も注力している取り組み。直近の5年間で月平均2時間30分以上の削減に成功した背景を、労務課の中村さんに伺いました。

「一人ひとりの残業時間を週に1回集計し、状況を可視化することで目標意識を持って働けるようにしています。また、どうしても目標時間を超えてしまう場合は上長だけでなく経営層自ら改善策を講じており、残業は会社全体の課題」として取り組んでいます」。

有給休暇取得率の向上と残業時間削減を積極的に推進しながら、さまざまな施策を導入し続けるSCSKサービスウェア株式会社。今後のビジョンについて、秋庭さんはこのように語ります。

「ワークとライフを分けるのではなく、その双方が豊かであることが何よりも大切。そういった夢ある未来を共に創るため、これからも全社一体となって推進していきます」